

学位プログラム DP レビュー

2025 年度 公共社会学科

1. 現状の説明

①授業実施評価レポート

成績評価の4つの視点（透明性・客観性・妥当性・公平性）について不足している科目についてたずねた。それぞれの「なし」が占める割合は9割前後を占めており、全体的には概ね良好な結果であった。他方、1年生においては4項目それぞれについて「1~2科目あった」という回答が、1~2割程度確認され、また他学年においても「透明性」「客観性」「妥当性」で「1~2科目あった」という回答が若干確認された。これらの点について教務・共通教育部会から、入学時には、各科目の中では成績評価の方法や目的について、オリエンテーションなどでは大学での成績評価の方法や目的について、より丁寧に説明を行うなどの工夫の必要性について、指摘を受けた。まず、コース担当者会議において担当教員間での情報共有を行い、全体的には良好な回答結果であることから、大きな問題はないことを確認した。その上で、学生への成績評価方法の周知や科目ごとの成績評価の方法・基準の確認について継続的に取り組むことにした。

成績分布については、成績Sが受講者の3分の2を超えていた科目が2科目あった。担当者に確認したところ、試験、課題を課すとともに、受講生の講義への参加度についても詳細な評価基準に基づいて適正に評価が行われており、特に問題はないことを確認した。「不可」が多い科目はなかった。

受講者数が5名未満の開講科目は、「公共経済学」、「地域社会分析法B」、「国際社会学B」「情報科教育法I」「情報科教育法II」であった。前年度よりみられた非常勤講師が担当する講義の受講者数が少ない傾向は幾分か改善したが、教務・共通教育部会からは、引き続き学生に講義を紹介し受講を勧めるなどの対策を続けるよう助言を得た。履修登録期間の冒頭に各学年に適切な履修登録を促し、非常勤講師による担当講義の紹介を教務委員からメールで行い、履修を勧めることにした。また2024年度の状況も踏まえて、報告のあった科目を含む科目群について、新任担当教員とも課題を共有することにし、体系的な履修を促すため当該科目を含む科目群について、昨年度行ったカリキュラム改正のねらいも併せて共有した。

②DP アンケート

DP アンケートの結果は、5点満点での平均値が全ての項目で4以上であり、項目6以外の項目が、前年度よりも0.1~0.3ポイント高い値を示している。全項目の平均値は4.5であり、4年間の学習成果について学生から一定以上の評価が得られており、学科DPに沿った教育が行われていると評価できる。教務・共通教育部会からは、全体的に良好な結果が得られていること、知識の修得に関する項目、思考や判断に関する項目、社会事象や多様性への態度に関する項目、技能の修得に関する項目で相対的に高い値を示していると評価を受けた。一方で、「自分の考え・気持ちを、他者に伝えるよう適切に説明できるようになった」、「地域課題や社会問題の背景を論理的に説明し、それへの対応策を説明できるようになった」については、前年度よりは向上しているが、他項目よりは低い値であるとの指摘がなされた。学生がさまざまな現場と関わりをもつ機会を増やし、課題解決に向けた、より実践的な考察・活動の機会をつくることなどを、引き続き検討しているところである。

③進路・資格試験・留年・退学状況

卒業生の進路は、55名の卒業生のうちの50名の就職希望者について、就職率100.0%となっている。就職先の内訳は「民間企業・団体等」が40名（80.0%）、「官公庁等」が10名（20.0%）、官公庁等のうち「教員」が4名（全体の8.0%）であった。このほか大学院・専門学校等の進学者が1名いる。資格について、公共社会学科では中学校教諭一種免許状（社会）取得者が8名、高等学校教諭一種免許状（公民）取得者は12名、高等学校教諭一種免許状（情報）取得者は3名、社会調査士資格取得者は27名、上級情報処理士資格取得者は35名であった。昨年度に続き、近年の傾向として「官公庁等」の就職者比率が高く、また一定数の教員を輩出しているのが特徴的である。この点は、民間企業への就職とあわせ、「現代社会の多様な課題に対応するため、地域社会と国際共生に焦点をあて、公共性に根ざした社会問題解決能力に秀でた人材を育成する」という学科の教育研究上の目的と一致していると考えられる。

留年生は4名であった。留年理由の内訳は留学が1名、進路検討・健康上の理由などが3名であった。退学者は2年次1名であったが、過去4年間から大きな変化はなかった。進路生活部会からは、学

科ではなく大学全体に対して、不本意な退学を避けるための支援を行っていく必要性について、指摘を受けた。

2. 2024 年度対応プランの結果

①の成績評価については昨年度に引き続き、1年生に対しオリエンテーションや授業の中で、大学での成績評価のあり方や目的に関して丁寧に説明を行った。また、コース会議で成績分布及び受講者数について情報共有と点検を行い、コース担当教員を中心に各自のシラバスや成績評価方針の点検を行った。専門科目の履修が増える2年生を中心に各科目やオリエンテーションにて、大学の成績評価の方法や目的についての説明を行った。結果、前述のように成績評価アンケートで良好な回答結果を得られた。成績分布については S 評価が多い科目について科目担当者に確認をとり、問題のないことを確認した。受講者数の少ない科目については、設定可能な範囲で時間割上の配置を工夫し、オリエンテーションで科目の内容紹介と履修奨励を行った。また、後期履修登録時に各学年にメールで科目の内容を紹介するなどした。それにより当該科目については一定の改善がみられたものの、他科目で履修者数が減少する科目がみられたため、引き続き改善に向け取り組む必要がある。

②の DP アンケートについては、全体的に良好な評価を得ていたが、地域課題や社会問題への背景や対応策に関し説明することや、主体的に取り組むことには、課題もみられた。そこで、地域課題や社会問題に関する教育について、教員間で情報共有を図り、各科目で適宜改善に向けた取組を進めた。結果、全体的に前年度よりも高い評価を得ることができた。「地域課題、または社会問題に対して、自ら何か働きかけたいと思うようになった」をはじめ、表現、主体性、協働性に関する項目も改善傾向が見られるものの、より良好な評価を得る努力を続ける。

③の卒業生の進路については、全学的な就職支援の整備とあわせ、学科においても就職支援に関する複数のプログラムを継続して運営してきており、一定の成果が現れていると言えよう。留年、退学の状況については、GPA が低い学生に対する面談や必修科目の授業参加が滞っている学生への連絡を継続して行い、不本意な留年、退学を避けるための支援を行ってきた。一部の学生には成績が向上するなど、指導・支援の成果改善がみられた。この後も弛まぬ働きかけを続けることが肝要である。

3. 今回の課題と対応プラン

①のうち、成績評価では、全体的に良好な結果が得られていることから、引き続きコースで全体的な成績分布や受講者数の情報共有と点検を継続して行う。また、コース担当教員を中心に各自のシラバスや成績評価方針の点検を継続して行う。また、専門科目の履修が増える2年生を中心に各科目やオリエンテーションにて、大学の成績評価の方法や目的についての説明を入念に行う。受講者数が少ない科目については、非常勤講師による担当講義の受講者数が少ない傾向がまだみられる。履修登録期間に各学年に適切な履修登録を促すとともに、非常勤講師による担当講義の紹介をオリエンテーションとメールで行い、履修を勧める。

②の DP アンケートでは、全体的に良好な結果が得られており、DP に沿った教育を継続するとともに、地域課題や社会問題に主体的に取り組む能力や意欲を高める教育を行うため、教員間で情報共有を図り、個々の科目で改善に向けた取組を進める。具体的には調査実習や演習のなかで、データ収集・分析能力を涵養するとともに、得られた結果をもとに課題解決に向けた、より実践的な考察・活動の機会をつくり、地域課題や社会問題に対する対応策の事例紹介やそれらに関し学生が考察、説明や活動を行う機会を増やすことなどが考えられる。

③の進路、資格試験については、学科の DP に沿った成果が現れていると考えられる。全学的な就職支援の整備とあわせ、学科においても就職支援に関する複数のプログラムを引き続き運営する。留年、退学の状況については、GPA が低い学生に対する面談や必修科目の授業参加が滞っている学生への連絡を継続して行い、不本意な留年、退学を避けるための支援を行っていく。

4. DP 達成状況のまとめ

以上、本学位について、成績評価、学生による評価、進路の状況から判断すると、DP 全体について一定以上の達成状況にあると考えられる。「表現、主体性、協働性」の項目においては改善点も見出されるため、この項目についての教育の強化も視野に入れながら、学位プログラムの運営に継続して努める。

- 添付資料：①「DP アンケート」
②「進路、資格試験、留年、退学状況（資料はこちらをクリック）」
③「授業実施評価レポート」

公共社会学科ディプロマ・ポリシーアンケート結果報告

1. ディプロマ・ポリシーアンケートの結果

質問項目	平均値
1. 社会学を中心とする社会科学の専門知識が身についた。	4.6
2. 異なる文化や価値観を、客観的に理解できるようになった。	4.7
3. 地域課題や社会問題を、その歴史的背景や現状の多様性をふまえて理解できるようになった。	4.6
4. 人間と社会に関連する幅広い諸科学の知識が身についた。	4.6
5. 物事について、根拠をふまえて意見する力がついた。	4.5
6. 物事について、公共性の観点をふまえて考えることができるようになった。	4.4
7. 自分の考え・気持ちを、他者に伝わるよう適切に説明できるようになった。	4.4
8. 地域課題や社会問題の背景を論理的に説明し、それへの対応策を説明できるようになった。	4.4
9. 目標に向けて自分で考え、主体的に活動できるようになった。	4.4
10. 様々な地域課題や社会問題、または異なる文化・価値観に対して関心をもつようになった。	4.6
11. 地域課題、または社会問題に対して、自ら何か働きかけたいと思うようになった。	-
12. 資料やデータを収集する技法が身についた。	4.5
13. 調査研究を行う際に、適切な方法により分析することができるようになった。	4.5
全項目平均	4.5

※項目 11 はワーディングに誤りがあったため非掲載。

自由回答

1. 少人数なので質問がしやすかった所が良かったです。
2. 満足です。
3. 情報整理や処理の多角的な方法を学ぶことができました。
4. 幅広く学べるところが良いと思った。
5. 社会問題をより身近に考えることができ、その解決まで深く思慮できること。
6. 日々の生活では気づかない視点から物事を考えることができるようになった。
7. 調査実習において、実際に調査票を配るところから実践できる点がとても力になったのではないかと思います。
8. 社会調査実習は、いい経験になったので、継続して欲しいと思います。
9. 日本だけでなく諸外国の文化への理解の深まる講義もあり、今となっては履修しておけば良かったなと感じます。
10. 講義中に学生同士や先生と沢山会話ができるところが良いと思います。
11. 様々な観点から社会について考えることが出来たことが自分自身とても身になったことが良い点だった。
12. 入学時にはわからなかった専門分野について詳しく学ぶことができよかったです。

13. データを扱うことに抵抗感や壁を感じなくなった。文系でありながらも、理系のような授業を受けることができたので、進路について幅が広く感じられた。
14. 社会問題に対して新たな知見、視点を得られ、これからの人生に大きな影響を与えてくれるであろう点が良い点だと思った。
15. 入学時より専門的な知識などがつけられ、大変ためになりました。
16. 多くの視点で考える事ができるようになった。
17. やりたい事が具体的に決まっていない、という人が身の回りにも多かったので、統計学などの情報系の講義がいくつかあったのが良かった。
18. もう少し実践的なことを学べたら良いと思う。
19. 実習があるところが良いと思った。
20. コロナ禍もあったが、ディスカッションがもっと増えても良いと思う。
21. 少人数で受けられて、質問もしやすい、ただ、公共社会の中での意見交流が多く、外部講師や他大学との交流が少なかったため、たくさんそのような場があったら、他の学問との専門性の知見を得ながら学べるのではないかと思います！ご指導、お世話いただいた教職員の皆様、ありがとうございました。

(計 21 件)

2. 結果について

1. 全項目で平均値が 4 を超えており、13 項目の平均値も 4.5 であることから、学生からは 4 年間の学修の成果について一定の評価が得られているものと考えられます。また、項目 6 以外の項目が、前年度よりも 0.1～0.3 ポイント高い値を示しています。
2. 知識の修得に関する項目 1、2、3、4、思考や判断に関する項目 5 では相対的に高い値を示しています。また、社会事象や多様性への態度に関する項目 10、技能の修得に関する 12、13 も相対的に高い値を示しています。
3. 一方で、表現や関する項目 7、8、主体性に関する項目 9 では、前年度よりは向上しているものの、相対的に低い値となっています。また、協働性に関する項目 11 はワーディングに誤りがあったため、今回は計測できていません。当該項目は前年度までも課題として指摘されてきている項目です。
4. 前項の改善に際しては、学生がさまざまな現場と関わり合いを持つ機会を増やすことなどが対応策として考えられます。例えば、それぞれの調査実習や演習のなかで、データ収集・分析能力を涵養するとともに、得られた結果をもとに課題解決に向けた、より実践的な考察・活動の機会をつくることなどが考えられます。

授業実施評価レポート

2025 年度 人間社会学部地域社会コース

1.2024 年度の状況

①成績評価アンケート

公共社会学科学生を対象とした成績評価アンケートの結果は、4つの指標について、ほとんどの学生がそのような視点が不足している科目が「なかった」と回答しており、概ね良好な結果であった。教務共通教育部会からは、全体的に良好な回答結果であるものの、人数はごく少数ではあるが、他学年に比べると2年生で4つの指標それぞれについて「そのような科目が一つ二つあった」との回答が1割弱確認され、また他学年においても「透明性」「客観性」「妥当性」の「一つ二つあった」という回答が若干確認されたとの指摘があり、この点について検討が求められた。

本件については、まずはコース担当者会議において担当教員間での情報共有を行い、全体的には良好な回答結果であることから、大きな問題はないものと判断されたところである。具体的な指摘があった科目については新しい担当者と課題を共有する。成績評価の方法や目的については、初回講義で丁寧に説明を行うことを確認し、学年初めのオリエンテーションでも、本学の成績評価の方法や目的についてより丁寧に説明を行うことにした。

②成績分布及び受講者数

成績分布について、全体の学科別成績分布では一定のバランスが取れており、「不可」が多い科目もなく、大きな問題はなかった。他方で教務共通教育部会からは、受講者数が5名未満である科目についての検討と、受講者数10名を超える科目において成績Sが受講者の3分の2を超えていた科目の評価方法や成績評価方針の確認が求められた。

これを受けて、コース担当者会議において、全体の成績分布及び受講者数と、成績Sが多い科目についての情報共有と検討を行った。その結果、当該年度は当該科目に限らず非常勤講師による担当講義の受講者数が少ない傾向が確認された。そのため、履修登録期間の冒頭に各学年に適切な履修登録を促すとともに、非常勤講師による担当講義の紹介を教務委員からメールで行い、履修を勧めることにした。また2024年度の状況も踏まえて、新任教員の採用人事と併せて、報告のあった科目を含む科目群について、より体系的な履修を促すためのカリキュラム改正を行うことにした。

次に成績Sが多い科目について、非常勤講師担当者に確認したところ、試験、課題を課すとともに、受講生の講義への参加度についても詳細な評価基準に基づいて適正に評価が行われており、特に問題はないことを確認した。

2.2024 年度レポート対応プランの結果

2024 年度は以下のとおり対応した。前年度の 2023 年度レポート対応プランを受けて、①受講者数の少ない科目について、オリエンテーションなどで科目に関する紹介と履修の奨励を行うこととした。特に非常勤講師担当科目については担当者の紹介を、前期のオリエンテーション時だけでなく、後期の履修登録期間開始時にメール等で行うなどし、学生の関心を喚起するよう努め受講を促した。このことにより、受講状況はある程度改善の兆しを見せていると思われる。

②過去の受講者数及び成績結果状況報告において報告のあった科目について、新任教員の採用と併せてより体系的な履修を促すためのカリキュラム改正を行ない、2025 年度より施行することとなった。

③継続してコース担当教員間で、全体的な成績分布についての情報共有と点検を行い、各自のシラバスの組立てや作成方針、成績評価方針の妥当性を確認した。また、入学直後の 1 年生のほか、2 年生に対しても、オリエンテーションの機会やそれぞれの授業の中で、大学での成績評価のあり方や目的について丁寧に説明を行うことを継続して努めた。その結果、上記のように成績評価アンケートの結果が良好であることから、一定の成果が認められると言えるだろう。

3.対応プラン

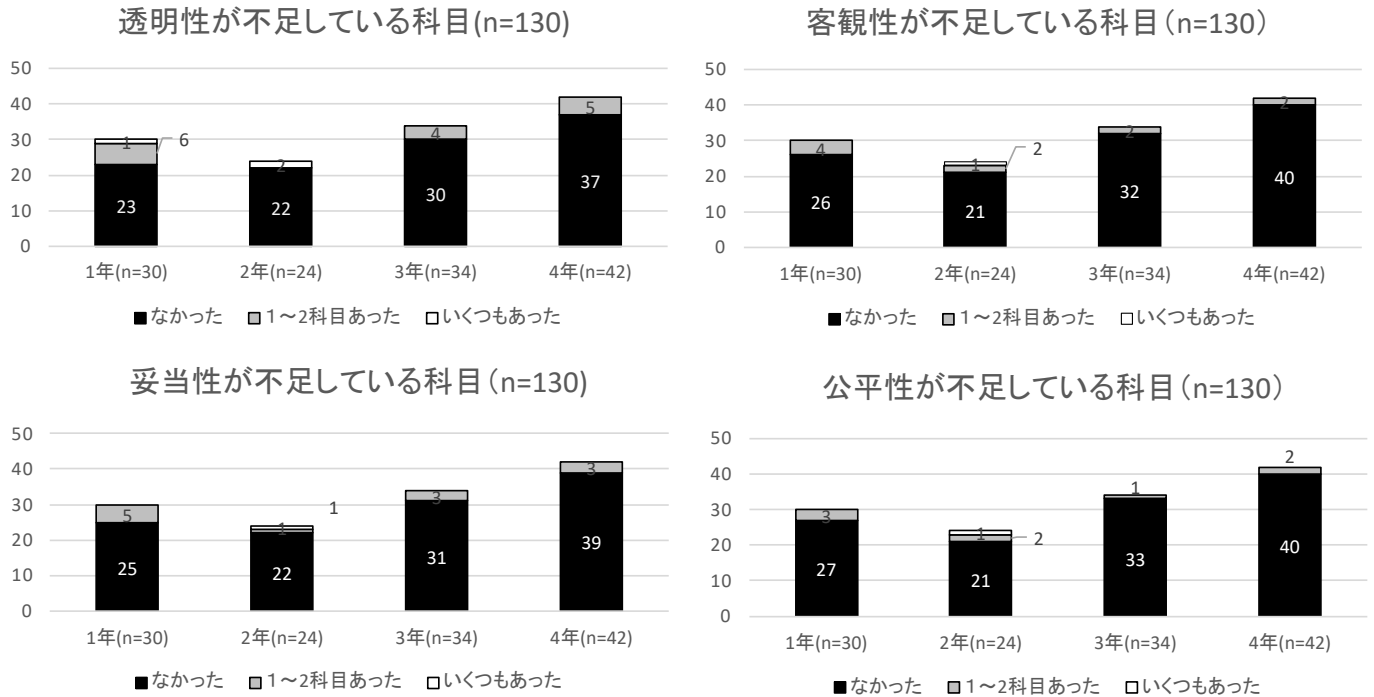
- ①引き続き、前後期履修登録期間に各学年に対し、授業の案内をするなど、受講前の学生の各教員（特に非常勤講師）に対する認知を少しでも高める工夫を引き続き行なっていく。
- ②今回のカリキュラム改正にとどまらず、最新の動向を踏まえるとともに受講者数及び成績結果状況報告等のレポート結果も加味した上で、今後の社会で学生が身につけていることを求められる能力に資するカリキュラムを実現できるよう、カリキュラムの検討を継続する。
- ③成績評価については、全体的には良好な結果が得られていることから、今後もコースにおいて、全体的な成績分布や受講者数についての情報共有と点検を行い、コースの担当教員を中心に各自のシラバスの組立てや作成方針、成績評価方針についての確認を続ける。特に、入学直後の 1 年生、専門科目の履修が増える 2 年生を中心に、各科目の中で担当教員から成績評価の方法や目的についてより丁寧に説明を行うこと、また学生全体に対しては学年初めのオリエンテーションにて、大学での成績評価の方法や目的について、より丁寧に説明を行う。

添付資料

- ・地域社会コース成績評価アンケート結果報告
- ・公共社会学科専門教育科目 受講者数及び成績結果状況報告
- ・公共社会学科専門教育科目カリキュラムマップ・公共社会学科（地域社会コース）カリキュラムツリー

地域社会コース成績評価アンケート結果報告

1.成績評価アンケートの結果



2.結果について

1. 全学年について、成績評価に関する4項目それぞれの「なし」が占める割合は、透明性=86.2%、客観性=91.5%、妥当性=90.0%、公平性=93.1%であり、概ね良好な結果です。
2. 全体的には良好な回答傾向と評価できますが、1年生においては4項目それぞれについて「一つ二つあった」という回答が、1~2割確認され、また他学年においても「透明性」「客観性」「妥当性」の「一つ二つあった」という回答が若干確認されます。ここから入学時に、各科目の中では成績評価の方法や目的について、オリエンテーションなどでは大学での成績評価の方法や目的について、より丁寧に説明を行うなどの工夫が必要になると考えられます。

3.検討してほしい科目についての回答

「検討してほしい」具体的な科目についての自由記述はありませんでした。

公共社会学科専門教育科目、教科及び教職に関する科目（高校公民・情報、中学社会）
受講者数及び成績結果状況報告

2024 年度の公共社会学科の専門教育科目、関連科目、教科及び教職に関する科目（高校公民・情報、中学社会）の各科目の受講者数及び成績結果をお知らせします。

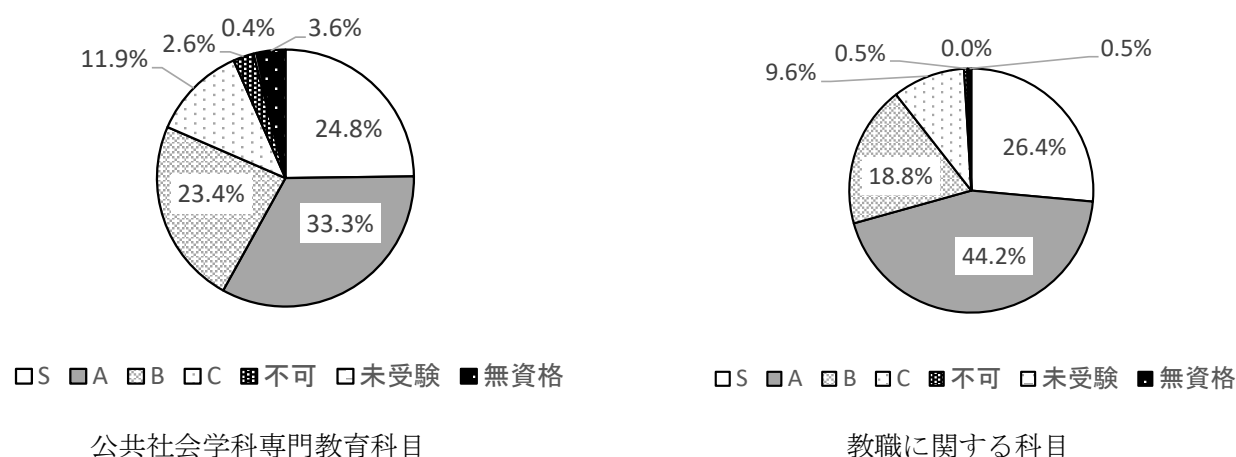
結果について

1. 受講者数が 5 名未満の開講科目は、「公共経済学」、「地域社会分析法 B」、「国際社会学 B」「情報科教育法 I」「情報科教育法 II」でした。前年度みられた非常勤講師が担当する講義の受講者数が少ない傾向は、幾分か改善しているようですが、引き続き学生に講義を紹介し受講を勧めるなどの対策を続けてください。また、受講者数が少ない科目の必要性や妥当性についても確認してください。
2. 受講者数 10 名を超える科目において、成績に「不可」が多い科目はありませんでした。
3. 受講者数 10 名を超える科目において、成績 S が受講者の 3 分の 2 を超えていた科目は、「社会調査実習 II」「生徒指導論 B」でした。評価方法や成績評価方針について確認をお願いします。

※ 本コメントは、問題点を指摘するものではありません。問題がないかを確認し、問題がない場合はこれで妥当であることを説明できるようにしてください。また強化あるいは変更したほうが良い点がある場合は、具体的な対策を立てられてください。

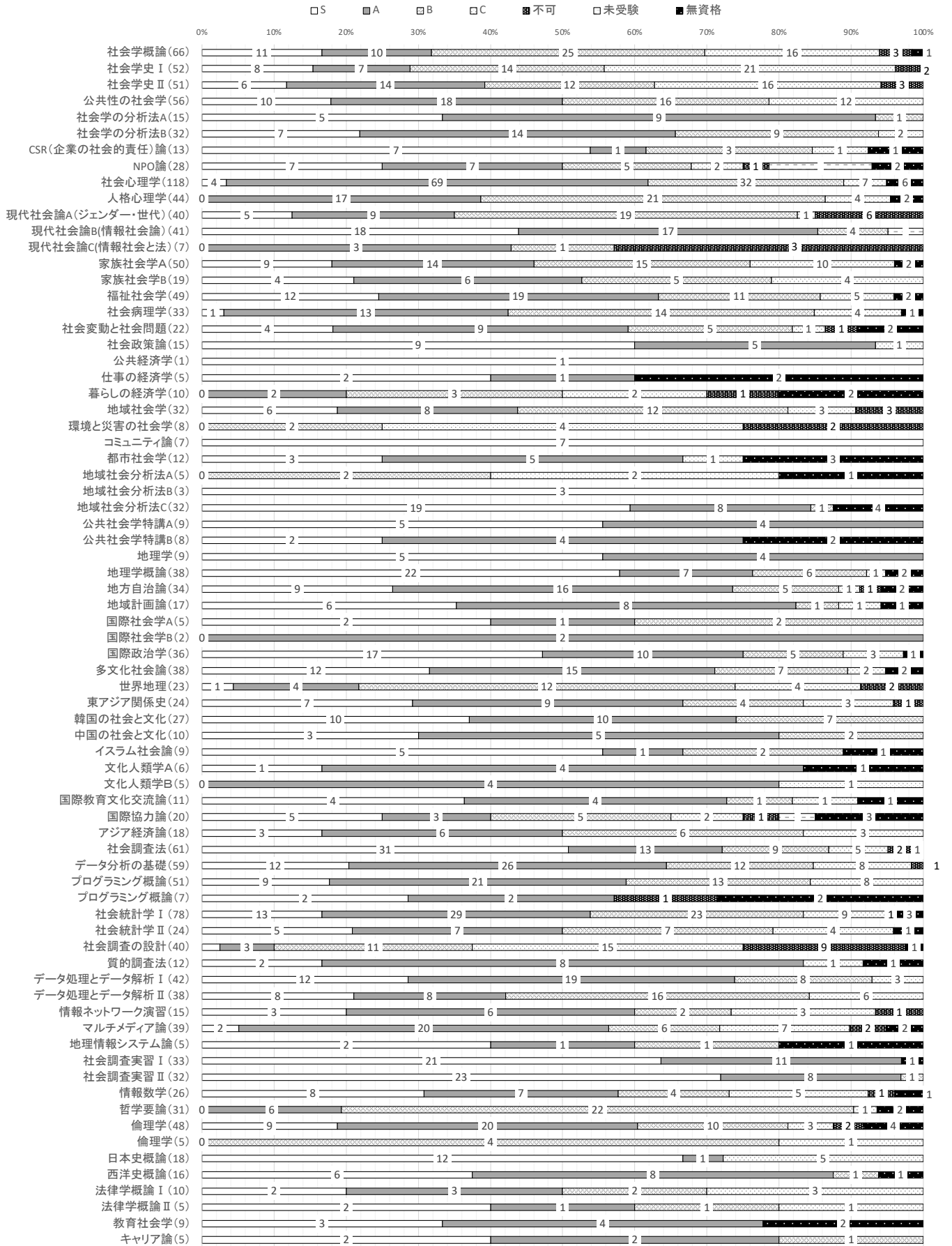
(添付資料)

(1) 学科別成績分布・教職に関する科目成績分布



(2) 各授業の成績分布 (公共社会学科専門教育科目。括弧内は受講者数)

公共社会学科専門教育科目の成績分布



(3) 各授業の成績分布（教職に関する科目（高等学校教諭一種免許状（公民、情報）、中学校教諭一種免許状（社会）。括弧内は受講者数）

公共社会学科専門教育科目の成績分布



公共社会学科カリキュラムツリー

○：必修科目 ★：1・2年生選択必修科目 ☆：3年生選択必修科目 ()は再掲 2025年度

新カリキュラム版

領域	区分1	区分2	1年	2年	3年	4年		
基幹科目	社会学の基礎・公共性の考え方を学ぶ	社会学（必修コア）	○社会学概論 ○社会学A（教養科目）	○社会学史Ⅰ ○社会学B（教養科目）	○社会学史Ⅱ			
		公共性・組織・社会心理	○公共性の社会学 人格心理学	社会学の分析法A (対人心理学)		☆NP0論 CSR（企業の社会的責任）論	社会学の分析法B	
		公共性の観点から課題を調査・分析し、報告する技法を学ぶ	○（教養演習）	（社会調査実習Ⅰ）	（社会調査実習Ⅱ）	○公共社会学研究Ⅰ	○公共社会学研究Ⅱ	○卒業論文
現代社会課題	社会現象を多角的に捉え分析する	家族・ジェンダー		★家族社会学A 現代社会学A（ジェンダー、世代）	家族社会学 (地域社会分析法)			
		福祉・社会問題		★社会病理学	(社会学の分析法A)	★福祉社会学	★社会変動と社会問題	
		情報社会		現代社会学B（情報社会学）	現代社会学C（情報社会と法）			
		経済・社会政策	経済学（教養科目）	社会政策論	★経済学概論A	経済学概論B	地域経済論 / (アジア経済論)	公共経済学
地域社会ネットワーク	地域を社会的に捉え分析する	地域・都市 特講		★地域社会学	都市社会学	★地域社会分析法A 公共社会学特講A	環境と災害の社会学 公共社会学特講B	
	地域を行政学・地理学的に捉え分析する	自治・住民参加 地理学	地理学 (世界地理)	★地方自治論	コミュニティ論	★地域社会学分析法C	地域計画論 (地理情報システム論)	
	アジアを軸にグローバルな視点で社会の現状と課題を考える	社会と開発 政治・経済 文化と歴史 人類学・宗教・地誌	★国際政治学 中国の社会と文化	政治学（教養科目） 中国の社会と文化	★多文化社会学論 東アジア関係史	国際社会学B 国際教育文化交流論	★アジア経済論 国際教育文化交流論	
社会調査・情報処理	社会調査・情報処理の基礎と方法を学ぶ（社会調査士・上級情報処理士）	社会調査総論	○社会調査法	★社会調査の設計				
		統計・データ解析 質的調査	○データ分析の基礎 質的調査	統計学（教養科目）	○社会統計学Ⅰ 質的調査法	社会統計学Ⅱ 社会調査実習Ⅱ	☆データ処理とデータ解析Ⅰ (文化人類学B)	☆データ処理とデータ解析Ⅱ
		社会調査実習	○社会調査実習		社会調査実習Ⅰ	社会調査実習Ⅱ		
		情報処理	数学概論（教養科目）	情報科学（教養科目）	○プログラミング概論 情報数学	情報ネットワーク演習 マルチメディア論		地理情報システム論
関連科目	いろいろな見方・考え方を学ぶ	歴史・哲学・倫理	哲学（教養科目）		日本史概論	西洋史概論 / (東アジア関係史)	倫理学 哲学要論	
		教育・心理	教育学概論B	対人心理学		生涯教育論	教育社会学 / (国際教育文化交流論)	
		法律	法学（教養科目）	憲法（教養科目）	(現代社会学C（情報社会と法）)		法律学概論Ⅰ	法律学概論Ⅱ
		社会福祉	社会福祉学概論Ⅰ	(社会政策論)	地域福祉論Ⅰ		地域福祉論Ⅱ	
	データサイエンス・プログラム			情報ネットワーク論	データベース論	プログラミング演習	情報検索システム論 (個人情報法制)	
	キャリアマネジメント・プログラム			Webデザイン演習		キャリア論	組織マネジメント 個人情報法制	
				問題解決演習		キャリア論	組織マネジメント	
				人的資源管理論		ビジネス倫理	個人情報法制	
教職課程	教職に必要な知識・方法を学ぶ	教育学概論B		教育史		教育課程論	教育の方法と実践	
		教師論		特別の支援を必要とする子供の理解		(教育社会学)	教育方法と情報技術	
				総合的な学習の時間と指導法		道徳教育B	キャリア論（進路指導）	
				特別活動		生徒指導論B	教育相談	
						情報と職業		
		発達心理学Ⅰ-A		教育心理学概論		社会科教育法Ⅰ	社会科教育法Ⅱ	
						公民科教育法Ⅰ	公民科教育法Ⅱ	
						情報科教育法Ⅰ	情報科教育法Ⅱ	
						教育実習事前事後指導（中高）		教職実践演習（中高）
						学校インターンシップ		高校教育実習 中学校教育実習
基礎教育科目	学びの基礎をつくる		教養科目（人文科学・社会科学・自然科学・複合領域）、基礎科目（外国語（必須・選択）・情報処理・健康科学・基礎ゼミ・発展ゼミ）					



DP1

現代において求められる幅広い基礎的教養を有している。

社会学を中心とする社会科学の専門知識をもとに、社会的現象の歴史的背景や多元性、異なる文化や価値観を理解できる。

DP2

現代において求められる汎用的技能を身につけている。

先行研究や各種の資料を適切に収集する技能、社会的現象を適切に観察、調査、分析する技能を身につけている。

DP3

現代における諸問題について、幅広い分野の知識をもとに、必要な情報を収集、分析し、表現することができる。

人間・社会の諸問題について、根拠に基づいて公共性の観点から論理的に整理することができる。

人間・社会の諸問題について、自らの考えを適切に説明することができる。

DP4

異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。

人間・社会の諸問題への深い関心のもと、問題解決に向け、主体的に学習を続ける力を身につけている。

人間・社会の諸問題について多様性を尊重し、多様な人々と協働することができる。

公共社会学科専門教育科目 カリキュラムマップ (2024)

授業科目の区分と科目名		単位		授業 方法	開講 年次	DP1	DP2	DP3	DP4	備考
		必修	選択							
基 幹 科 目	社会学概論	2		講義	1	○		○		
	社会学史 I	2		講義	2	○				
	社会学史 II	2		講義	2	○				
	公共性の社会学	2		講義	1	○		○		
	社会学の分析法 A		2	講義	2	○		○		
	社会学の分析法 B		2	講義	3	○		○		
	集合行動論		2	講義	3	○		○		
	CSR (企業の社会的責任) 論		2	講義	3	○		○		
	NPO 論		2	講義	3	○		○	○	
	社会心理学		2	講義	1	○				人間形成学科開設科目
	人格心理学		2	講義	1	○				人間形成学科開設科目
	公共社会学研究 I	1		演習	3	○	○	○	○	
	公共社会学研究 II	1		演習	3	○	○	○	○	
	卒業論文	6		演習	4	○	○	○	○	
現 代 社 会 課 題	現代社会論 A (ジェンダー・世代)		2	講義	2	○				
	現代社会論 B (情報社会論)		2	講義	2	○		○		
	現代社会論 C (情報社会と法)		2	講義	2	○		○		
	家族社会学 A		2	講義	2	○		○		
	家族社会学 B		2	講義	2	○		○		
	福祉社会学		2	講義	3	○		○		
	社会病理学		2	講義	2	○		○		
	社会変動と社会問題		2	講義	3	○		○		
	社会政策論		2	講義	1	○		○		
	経済学概論 A		2	講義	2	○		○		
	経済学概論 B		2	講義	2	○		○		
	公共経済学		2	講義	3	○	○	○		
	地 域 社 会 ネ ッ ト ワ ー ク	地域社会学		2	講義	1	○		○	
環境と災害の社会学			2	講義	3	○		○		
コミュニティ論			2	講義	2	○		○	○	
都市社会学			2	講義	2		○	○	○	
地域社会分析法 A			2	講義	3	○	○	○	○	
地域社会分析法 C			2	講義	3		○	○		
公共社会学特講 A			2	講義	3	○	○	○	○	
公共社会学特講 B			2	講義	3	○	○	○	○	
地理学			2	講義	1	○	○	○		
地理学概論			2	講義	2	○	○	○		
地方自治論			2	講義	2	○	○	○		
地域計画論		2	講義	3	○		○			
地域経済論		2	講義	3	○		○			
ア ジ ー	国際社会学 A		2	講義	2	○		○		
	国際社会学 B		2	講義	2	○		○		
	国際政治学		2	講義	1	○		○	○	
	多文化社会論		2	講義	2	○		○	○	
	世界地理		2	講義	1	○	○	○	○	
	東アジア関係史		2	講義	2	○		○	○	

ア 国際 共生	韓国の社会と文化		2	講義	1	○	○	○	○	
	中国の社会と文化		2	講義	1	○		○	○	
	イスラム社会論		2	講義	2	○		○		
	文化人類学A		2	講義	3	○		○		
	文化人類学B		2	講義	3	○	○	○		
	国際教育文化交流論		2	講義	3	○		○		
	国際協力論		2	講義	1	○		○	○	
	アジア経済論		2	講義	3	○		○	○	
社会 調査 ・ 情報 処理	社会調査法		2	講義	1		○	○		
	データ分析の基礎		2	講義	1		○	○		
	プログラミング概論		2	講義	2	○	○	○		
	社会統計学Ⅰ		2	講義	2		○	○		
	社会統計学Ⅱ		2	講義	2		○	○		
	社会調査の設計		2	講義	2		○			
	質的調査法		2	講義	2		○	○		
	データ処理とデータ解析Ⅰ		1	演習	3	○	○	○		
	データ処理とデータ解析Ⅱ		1	演習	3	○	○	○		
	情報ネットワーク演習		1	演習	2		○	○		2023年度から開設
	マルチメディア論		2	講義	2		○	○		2023年度から開設
	地理情報システム論		2	講義	3		○	○		2024年度から開設
	社会調査実習Ⅰ		2	実習	2	○		○	○	
社会調査実習Ⅱ		2	実習	2	○		○	○		
情報数学		2	講義	2	○	○	○			
関 連 科 目	哲学要論		2	講義	3	○		○		
	倫理学		2	講義	3	○		○		
	日本史概論		2	講義	2	○		○	○	
	西洋史概論		2	講義	2	○		○		
	法学概論Ⅰ		2	講義	3	○		○		
	法学概論Ⅱ		2	講義	3	○		○		
	教育社会学		2	講義	3	○	○	○		
	社会福祉学概論Ⅰ		2	講義	1	○				社会福祉学科開設科目
	地域福祉論Ⅰ		2	講義	2	○				社会福祉学科開設科目
	地域福祉論Ⅱ		2	講義	3	○				社会福祉学科開設科目
	教育学概論B		2	講義	1	○				
	生涯教育論		2	講義	2	○				人間形成学科開設科目
	対人心理学		2	講義	1	○				人間形成学科開設科目
	Webデザイン演習		1	演習	2	○	○	○		総合人間社会コース
	情報ネットワーク論		2	講義	2	○		○		総合人間社会コース
	データベース論		2	講義	2	○	○	○		総合人間社会コース
	プログラミング演習		2	演習	3	○	○	○	○	総合人間社会コース
	情報検索システム論		2	講義	3	○		○		総合人間社会コース
	問題解決演習		1	演習	2		○	○	○	総合人間社会コース
	人的資源管理論		2	講義	2		○	○		総合人間社会コース
キャリア論		2	講義	3		○	○		総合人間社会コース	
組織マネジメント		2	講義	3			○	○	総合人間社会コース	
ビジネス倫理		2	講義	3			○		総合人間社会コース	
個人情報法制		2	講義	3	○		○		総合人間社会コース	

《教職に関する科目《高等学校教諭1種免許状（公民・情報）・中学校教諭1種免許状（社会）》》

授業科目の区分と科目名	単位		授業 方法	開講 年次	DP1	DP2	DP3	DP4	備考
	必修	選択							
教育学概論B	2		講義	1	○	○	○	○	
教育史		2	講義	2	○	○	○		
教師論	2		講義	1	○	○	○		
教育社会学	2		講義	3	○	○	○		
発達心理学Ⅰ-A		2	講義	1	○				人間形成学科開設科目
教育心理学概論		2	講義	2	○				人間形成学科開設科目
特別の支援を必要とする子供の理解	1		講義	2	○	○	○	○	
教育課程論	2		講義	3	○	○	○	○	
道徳教育B	2		講義	3	○	○	○	○	
総合的な学習の時間の指導法	1		講義	2	○	○	○	○	
特別活動	1		講義	2	○	○	○	○	
教育の方法と実践	1		講義	3	○	○	○	○	
教育方法と情報技術	1		講義	3	○	○			
生徒指導論B	2		講義	3	○	○	○	○	
教育相談	2		講義	3	○				人間形成学科開設科目
キャリア論（進路指導）	2		講義	3		○	○		総合人間社会コース
情報と職業	1		講義	3	○		○		
公民科教育法Ⅰ	2		講義	3	○	○	○	○	
公民科教育法Ⅱ	2		講義	3	○	○	○	○	
情報科教育法Ⅰ	2		講義	3	○	○	○	○	
情報科教育法Ⅱ	2		講義	3	○	○	○	○	
社会科教育法Ⅰ	2		講義	3	○	○	○	○	
社会科教育法Ⅱ	2		講義	3	○	○	○	○	
教育実習事前事後指導（中高）	1		実習	3・4	○	○	○		
高校教育実習	2		実習	4	○	○	○	○	
中学校教育実習	4		実習	4	○	○	○	○	
学校インターンシップ	2		実習	3	○	○		○	
教職実践演習（中高）	2		演習	4	○	○	○		